インテレッセ・インターナショナル・インク

President & C.E.O.
藤原昌人氏インタビュー

２００７年２月現在、全米１２箇所と日本に拠点を構え、人事・人材派遣サービスを提供しているインテレッセ・インターナショナル・インク。昨年創立１０周年を迎えた同社の今後の事業展開について、社長の藤原昌人氏にお話を伺った。

御社が開発した求人・求職データベース・サーバー「Job Navigator™」や「オンライン・タイムシート」を駆使した人事・人材派遣業務システムが話題になっていますが…？

このシステムによってアメリカ13カ所、そして日本の拠点から発信される情報がどこにいても確認できるようになりました。アメリカ、日本、ヨーロッパの仕事情報を得ることができ、求職者の方からも好評です。また派遣先企業、そしてスタッフ向けに開発したオンライン・タイムシートシステムにより、24時間インターネットを通じて勤務時間を報告することが可能となりました。従来の手書き・ファックスによるタイムシートと比較すると書き間違いや給与の計算ミスなどが発生しない分、正確性が高まったといえます。また、ご利用いただいている派遣先企業の方からは「出張先からも勤務状況や、今までの就業記録がネット上で直ぐに確認できるので便利」と好評を頂いております。これはアメリカにある日系人材サービス会社では初めて導入されたシステムです。

昨年、御社のウェブサイトを一新したそうですね。

求職者用と企業側それぞれのニーズに合わせてウェブサイトを利用して頂けるよう、改良いたしました。たとえば、求職者用のウェブサイトには現地社員によるブログを載せローカル情報を充実させました。そうすることによって、求職者の方が新しい土地で仕事を探す際に、実際に仕事が決まった後の現地での生活の様子が想像できるようになったのではないかと思っております。近いうちにこの「知って得する地域情報」をより拡充し、その地域のレストラン、住宅情報、生活情報などを満載し、就職・転職に役立つ情報サイトにしようと思っています。

アメリカでの就労ビザH-1が取りにくくなっていると聞きますが…。

アメリカの大学を卒業した能力のあるバイリンガル学生たちが、ビザが降りにくいと理由でチャンスを逃しています。この問題を解消する為に、弊社では国際派新卒紹介予定派遣プロジェクトというものを用意しています。アメリカ現地法人でインテレッセから、翌年3月末まで派遣で実地研修を含めて、ビジネス経験を積みます。そして4月には日本の親会社にて正社員として採用されるプロジェクトです。これにより、日本就職するまでの間の待ち期間や、確実に英語を必要とする国際派ポジションに就けるものです。現在受け入れ先企業に営業して回っていることです。

今後の事業計画について…

日本とアメリカだけではなく、ヨーロッパや他アジア諸国、中南米に拠点を構える事で世界規模のネットワークを築いて行ければと考えております。特にドイツは産業や文化の面でアメリカ中西部とのつながりが深く、私共にとってビジネス展開がしやすい土地です。常にグローバルな人事・人材総合サービスを提供し、最新の就職情報を発信していきたいと考えております。

薄原昌人社長（左）とシカゴ支店コンサルタントの蜷川麻衣子さん（右）

協力：インテレッセ・インターナショナル・インク
www.iiicareer.com